

レオンハルト設計事務所で勉強した思い出

今井 義明*

当社は、ドイツのレオンハルト設計事務所から、橋梁を中心に多くの技術を導入してきました。古くは、1958年に集中方式のPC定着工法であるレオンハルト工法、それ以後、1973年に押出し工法、1977年にPC斜張橋、1978年にコンクリートタワーが挙げられます。当社の大勢の技術者が、情報収集や調査、技術提携の手続きなどで、当時はまだ西ドイツのシュツットガルト市にあるレオンハルト設計事務所を訪問し、レオンハルト教授とお会いしています。

私が入社して、土木設計部橋梁課に配属されたとき、レオンハルト工法の最後の実績に近い東北新幹線鬼怒川橋梁（スパン88m、2径間連続桁、4連）が工事中でした。新入社員の内私は、支保工や付属物（検査口の蓋、電車線柱梁など）の設計をした後、2ヵ月間現場研修に派遣され、PC橋の工事を初めて体験しました。工事の看板に、社名とともに「レオンハルト工法」の文字が大書きされていたのが印象に残っています。

1977年に、当社が、PC斜張橋の設計施工技術に関する技術提携をしたとき、まだわが国には本格的なPC斜張橋は建設されていませんでした。しかし、欧米では、スパンが300mを超すPC斜張橋が次々に完成していました。当時、西ドイツのレオンハルト設計事務所は、世界で最先端の技術を誇っていました。技術提携の契約に、技術者のトレーニングという項があり、私が派遣されました。

私がシュツットガルト空港に到着したのは、日曜日の朝でしたが、わざわざレオンハルト教授が空港に出迎えてくださいました。その日は、シュツットガルト駅前のホテルに一泊しました。ホテルの窓から、はるか丘の上に、コンクリート製のテレビ塔が見えました。レオンハルト教授が設計した有名なコンクリートタワーです。レオンハルト設計事務所は、欧米のコンクリートタワーを数多く設計して

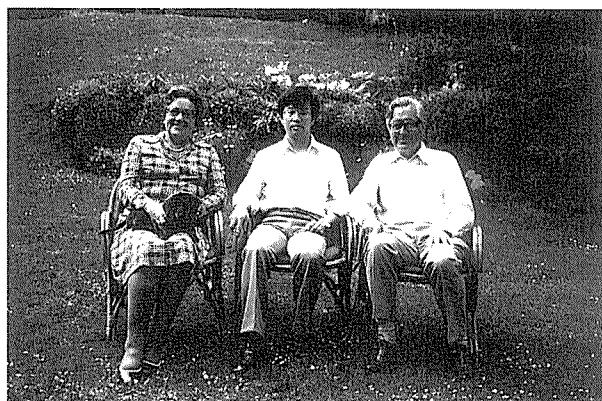


写真-1 レオンハルト博士ご夫妻と私

いました。事務所の人が、とくにドイツ国内では90%以上のシェアだと自慢していました。

翌朝、駅前の駐車場から20分ほどバスに乗り、Lenzhaldeのレオンハルト設計事務所に行きました。レオンハルト設計事務所は、3、4階建ての5棟の建物に分かれていて、いずれもLenzhaldeの坂道の途中にありました。社長室で、教授は改めて長旅を労ってくださった後、私を預る部署の長であるW. Zellner氏を呼び、引き合わせました。W. Zellner氏のグループは、PC斜張橋を含む橋梁の設計が担当でした。W. Zellner氏は、2軒ほど隣にある自分のグループが入っている建物に私を連れて行き、部下たちに紹介してくれました。2階の一室に私の机が用意されていました。隣室のH. S. Svensson氏が教育担当者でした。現在、彼は世界で著名な橋梁技術者です。私は、約3ヵ月間にわたり、与えられたPC斜張橋の設計図書を学習するとともに、代表的な工事を見学したのです。

当時の教授は、すでに60代の後半でしたが、とてもお元気で、精力的に仕事をしていました。事務所の人の話ですと、設計事務所の仕事よりは、講演、委員会や設計コンペの審査委員長などの仕事が大半だということでした。一度、教授が、かつて学長をしたシュツットガルト大学で、教授の講演があるというので、H. S. Svensson氏が連れて行ってくれたことがありました。会場は学生たちで満員で、最後まで熱心に聞き入っていたのが印象的でした。私には、講演がドイツ語だったので、内容はよく分からなかったけれど、教授が若い学生たちに敬愛されているのはよく分かりました。

ドイツ滞在中、私はレオンハルト教授の家でお世話になりました。教授の家は、事務所から歩いて5分ほど、緩い坂道を登ったところにあります。レオンハルト夫人が、シュツットガルト市は盆地なので、住宅立地は市の北方の南側斜面が日当たりが良くて最適だ、とおっしゃっていたのを記憶しています。がっしりした邸宅の裏に、広大な手入れの行き届いた庭園がありました。私が滞在したのは、5月から7月でしたので、庭園は色とりどりの花で埋まっていました。同居の家族は、ご夫妻、高校生の末娘さんとユーゴスラビア人のお手伝いさんでした。時々医者のお息子さんやすでに結婚していた娘さんが遊びに来ました。また外国からもお客さんが来ていました。教授ご夫妻はいつも丁寧私を紹介してくれました。

世界中の多くの技術者に尊敬された教授の御生涯に敬意を表すとともに、御冥福を心よりお祈りいたします。

【2000年2月18日受付】

* Yoshiaki IMAI : 大成建設(株) 土木設計第一部 部長 兼 橋梁設計室長